

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1018 子育て支援センター事業	会計	01	一般会計
		款	03	民生費
		項	04	児童福祉費
基本 施策	10 少子化に歯止めをかける	目	01	児童福祉総務費
		細目	218	子育て支援対策事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	02	子育て支援センター費
担当部課	コード 653000 名称 阿山支所 住民福祉課	担当者 氏名	平岡 美香	連絡先 43 - 332 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	市内の乳幼児を持つ保護者	※対象件数
成果(どうする)	子育てに対する不安感、負担感を軽減し、保護者同士、子ども同士の交流の場を提供することにより、子育てをサポートする。	
根拠法令・要綱等	伊賀市子育て支援センターの設置及び管理に関する条例	
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	【開館日】火曜日～土曜日の午前9時から午後5時 【休館日】日曜日、月曜日、祝日、12月29日から翌年1月3日 支援事業、相談指導、情報提供を実施することにより子育て支援を行う。 『実施事業』 ・元気っ子ひろば…毎月1～2回実施。びよっこエプロン…毎月1回実施。たまびよサロン…毎月1回実施。アロマストレッチ…年4回実施。ねえねえよみっこ教室…年3回実施。ベビーマッサージ教室…年10回実施。けんずい祭りへの参加。元気っ子ひろまフェスタ…年1回実施。世代間交流事業(保育所)…年8回実施。世代間交流事業(その他)…年2回実施。	
社会情勢 の変化等	あやま文化センターから平成21年度に阿山保健福祉センターに活動拠点が変更になった。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	4,824 千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
元気っ子ひろば		回	目標	12	目標	12
			実績	12	実績	20
びよっこエプロン		回	目標	12	目標	12
			実績	12	実績	12

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
利用者数		利用者延べ人数	人	目標	2500	目標	2500
				実績	2724	実績	6678
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	2,443	2,453	4,824	4,850				
Aの財源内訳								
国庫支出金			2,401					
県支出金	1,522	1,636						
地方債								
その他	0	0	60					
一般財源	921	817	2,363	4,850				
事業投入人件費 (B)	0.3人	2,160	0.3人	2,160	0.5人	3,600	0.5人	
フルコスト(A)+(B)	4,603	4,613	8,424	8,450				

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	○
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	補助メニューの選択により、事業展開を考える。
昨年度 の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 各種教室などを通じて、子どもや保護者が互いに交流できる場所をつくり、子育てに関する相談、情報提供を実施。また地域ボランティアや子育てサポーター、デイサービスの人々との交流により、地域の交流、世代間の交流を図ることができた。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	福田真由美
【方向性】	現状維持
【理由】	施設も充実し、交通の便がよくなり、他地域からの利用も増えている。臨時職員で対応しているが、事業に対して真摯に取り組んでおり、地域の子育て支援センターの機能は果たしている。今後も充実した事業の継続が必要である。
現時点における課題、その他	子育て支援と共に、子育てを担っている母親の支援も観点に入れて事業を推進する必要がある。各教室を実施する中で見えてくるものがある。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成23年度以降、母子事業などと連携を取りながら、子育て支援を行う。